

ものづくりの“心”をつたえる。



証券コード: 2169

2016年12月期 決算説明会資料

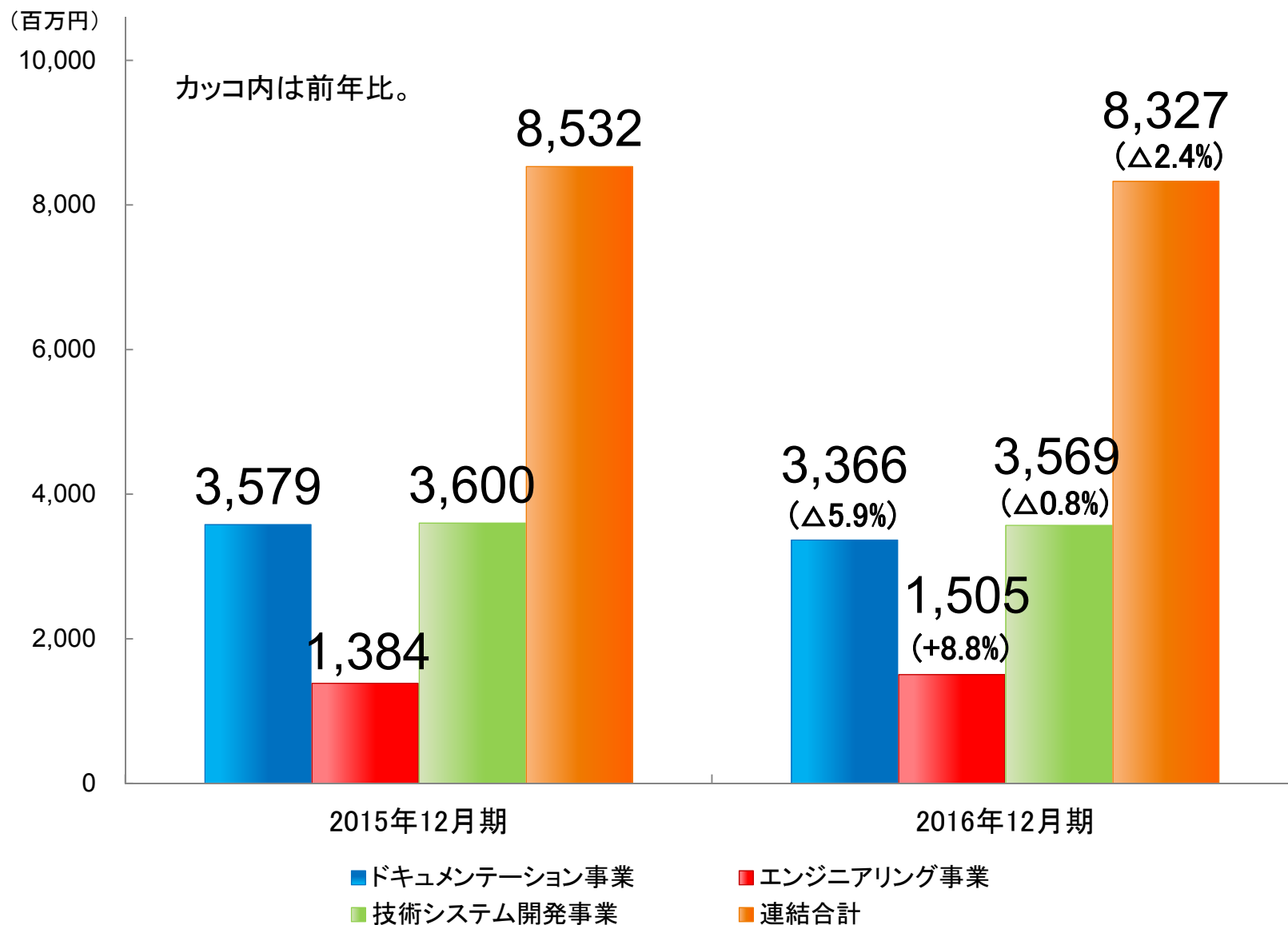
2017年2月27日

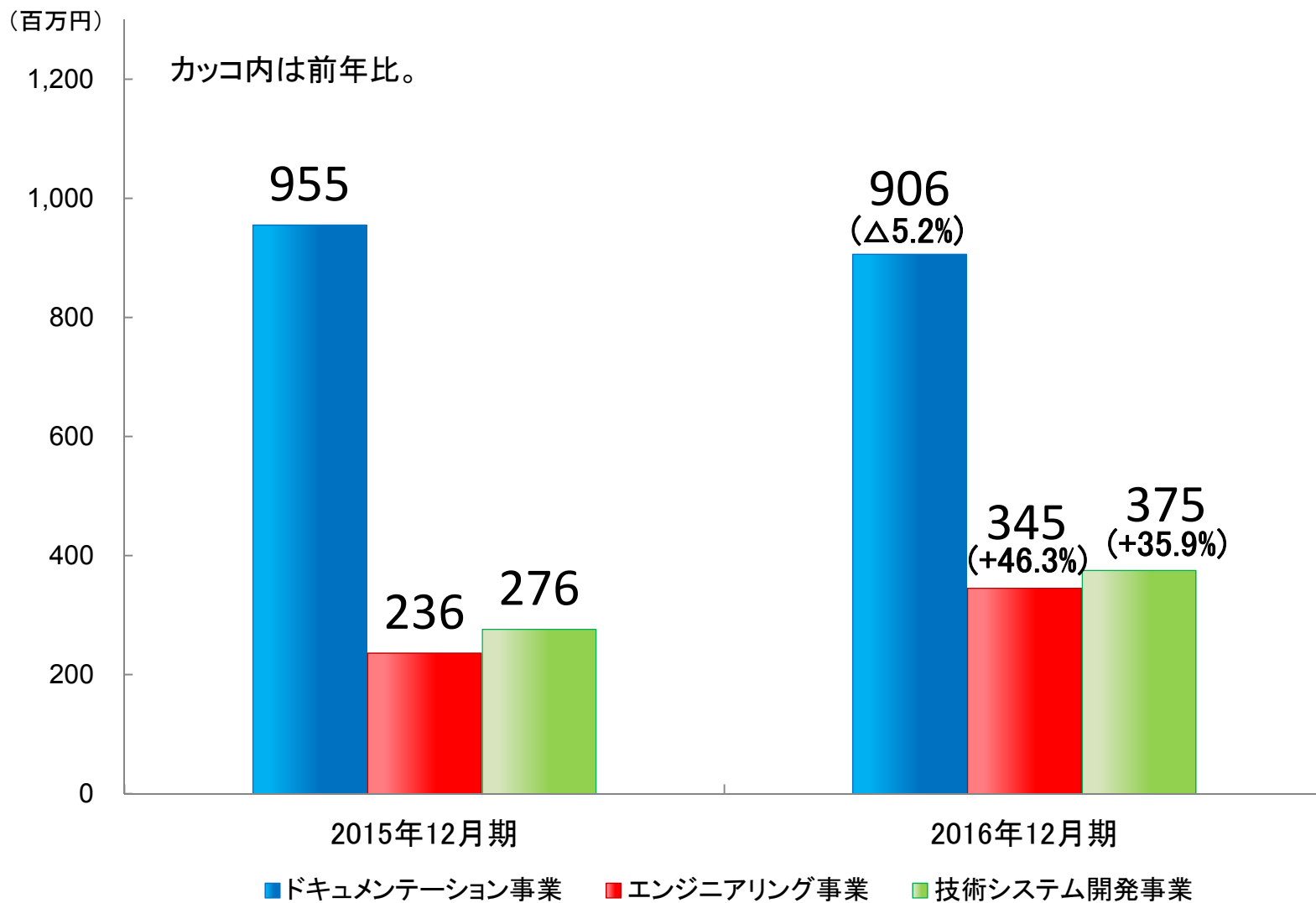


2016年 12月期決算

単位:百万円

	2015年 12月期	2016年12月期		
		前年比	増減額	
売上高	8,532	8,327	△2.4%	△205
営業利益	907	1,028	+13.3%	+121
経常利益	898	1,030	+14.6%	+132
当期純利益	531	581	+9.5%	+50





※ セグメント間調整は含まず。

ドキュメンテーション事業

- ◇ ドキュメンテーション事業は一部の顧客企業で機種開発の抑制などが行われた影響を受け、減収減益となった。

エンジニアリング事業

- ◇ エンジニアリング事業はバイナスのFA教育事業・ロボットFA事業が好調に推移したことにより、増収増益となった。

技術システム開発事業

- ◇ 技術システム開発事業は売上高はほぼ前年並みとなったが、作業の効率化・経費の抑制が進んだことにより、増益となった。

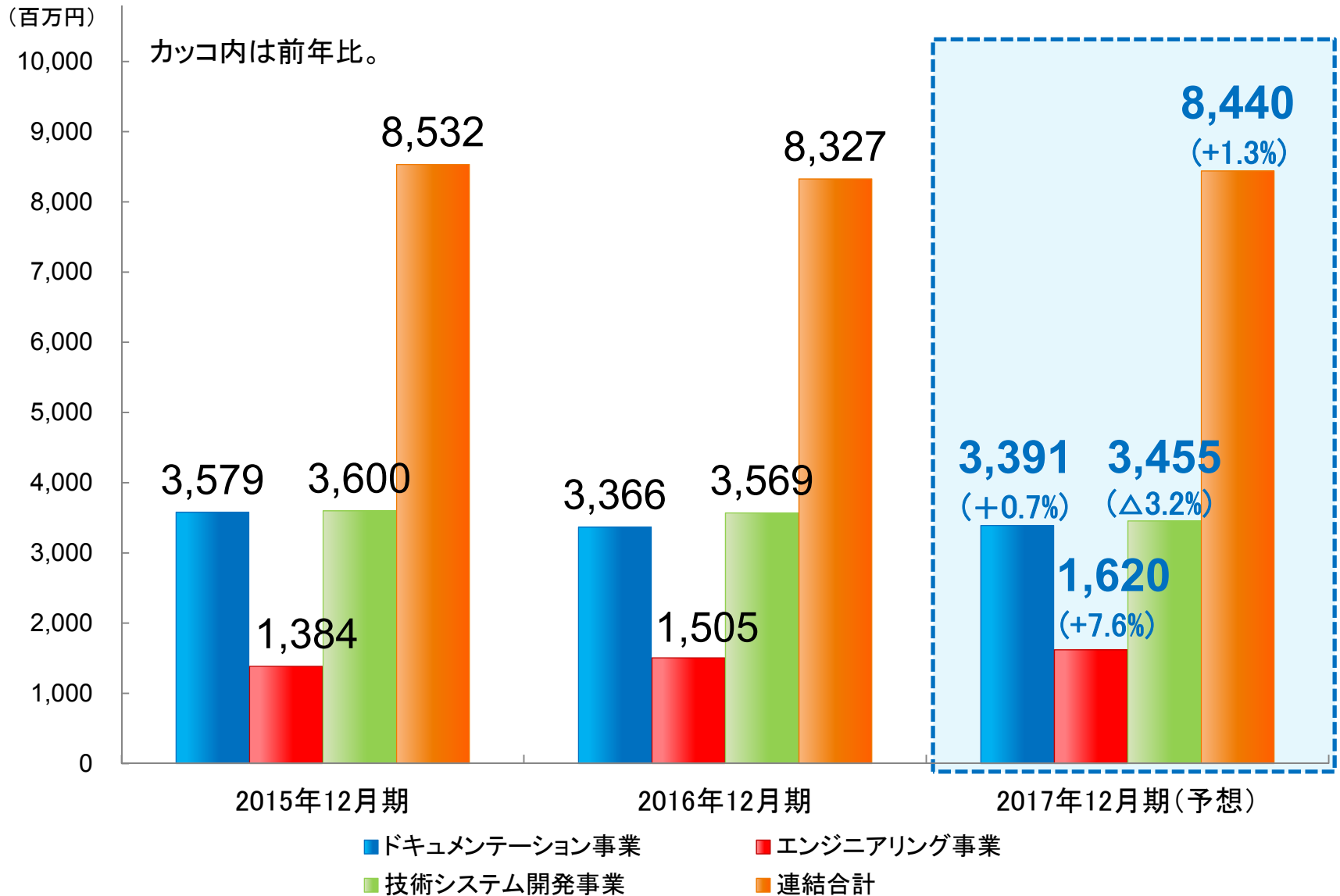


2017年 12月期 業績予想

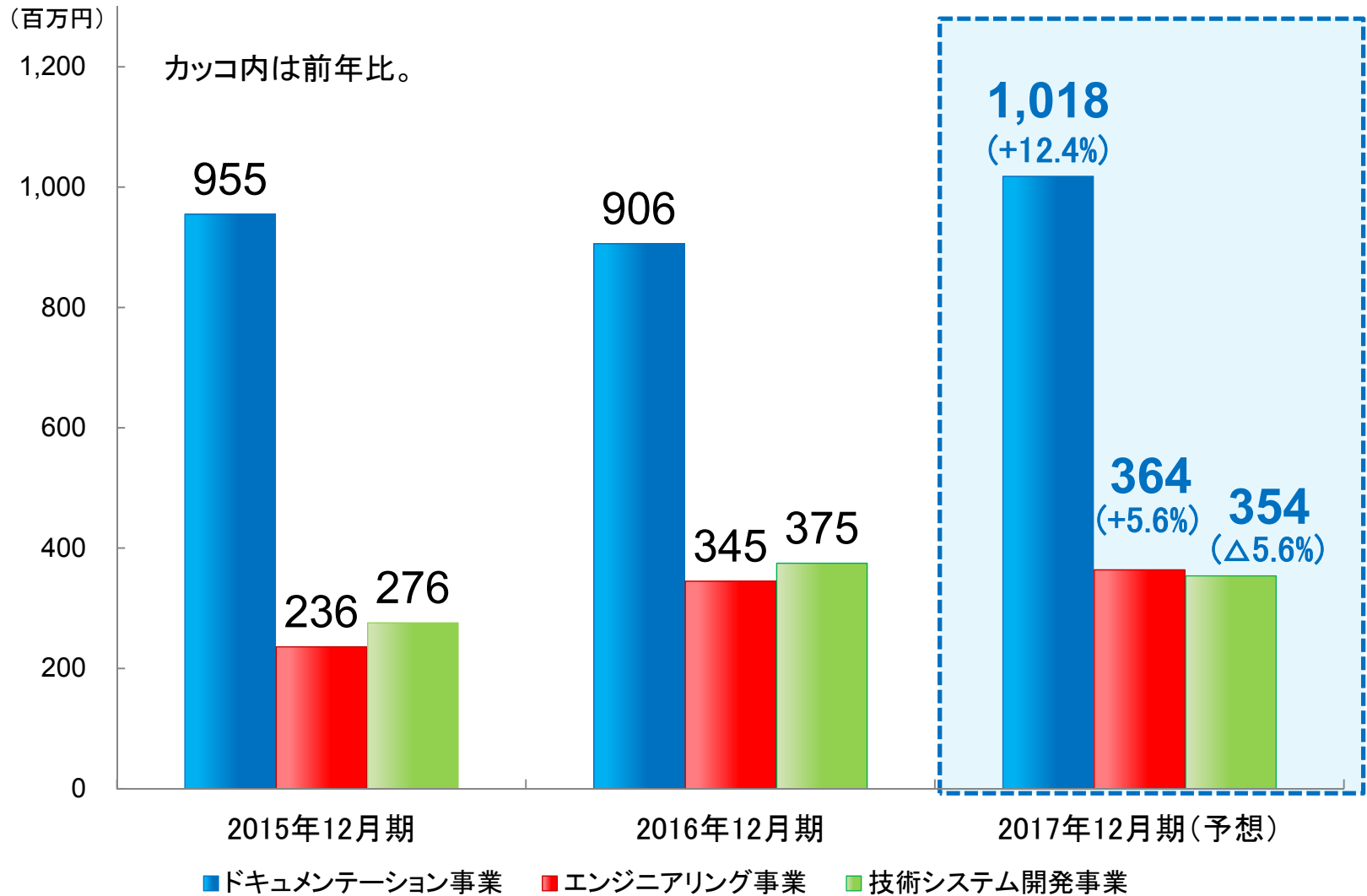
単位:百万円

	2015年 12月期	2016年 12月期	2017年12月期(予想)		
				前年比	増減額
売上高	8,532	8,327	8,440	+1.3%	+113
営業利益	907	1,028	1,073	+4.3%	+45
経常利益	898	1,030	1,061	+3.1%	+31
当期純利益	531	581	648	+11.4%	+67

2017年12月期 連結売上高の事業別内訳(予想)



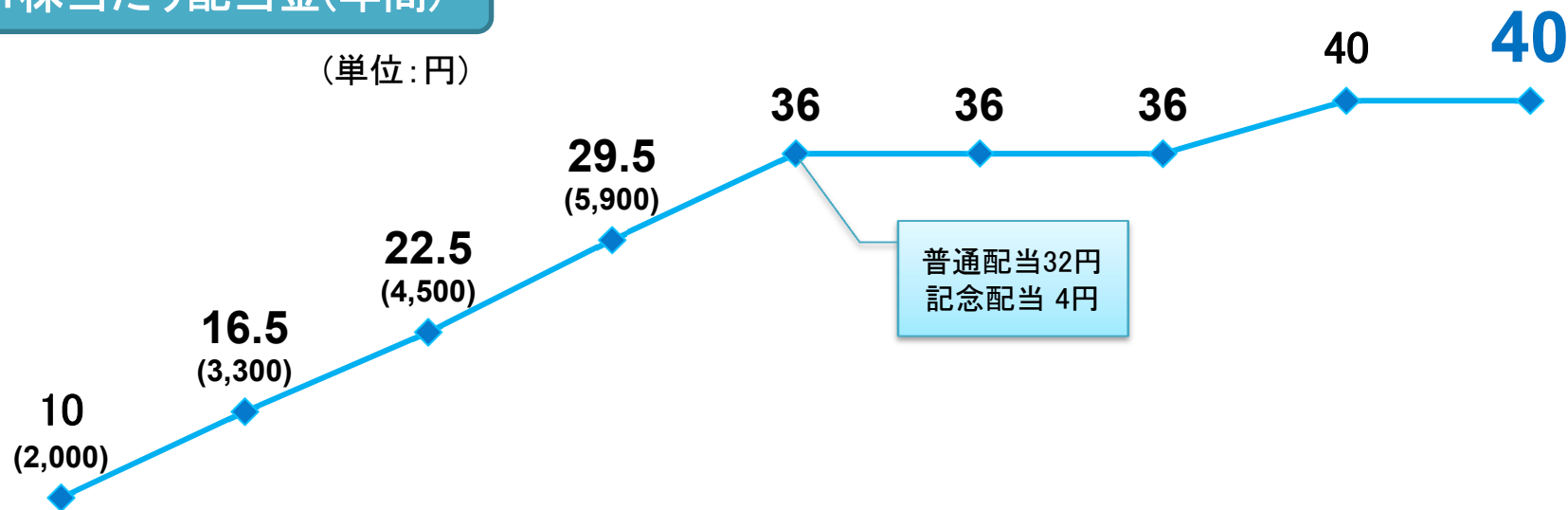
2017年12月期 連結営業利益の事業別内訳(予想)



※ セグメント間調整は含まず。

1株当たり配当金(年間)

(単位:円)



※ 2013年1月1日に株式200分割を実施。
カッコ内は分割前実績。

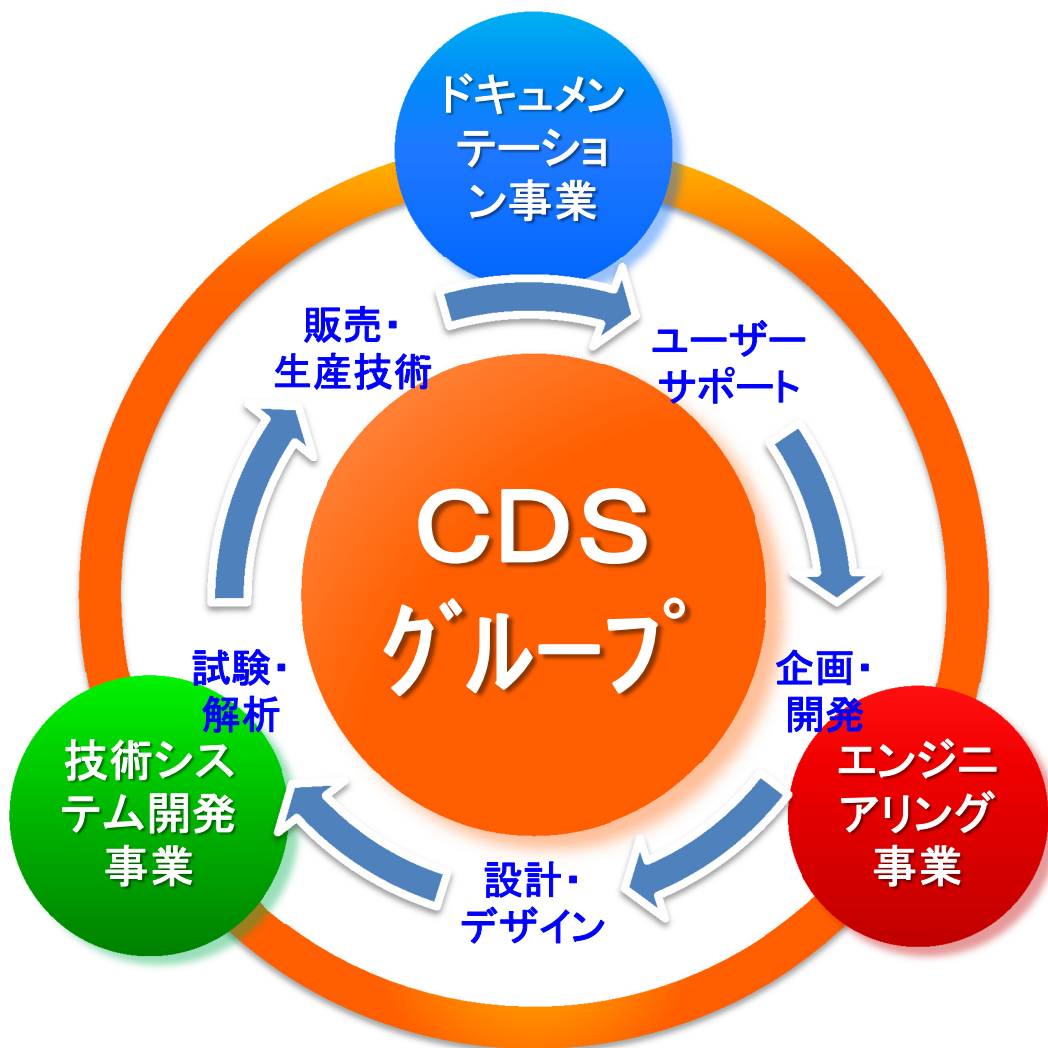
2009年12月期 2010年12月期 2011年12月期 2012年12月期 2013年12月期 2014年12月期 2015年12月期 2016年12月期 2017年12月期
(予想)

	中間	期末	年間	配当性向	ROE
2015年12月期	18円	18円	36円	46.2%	12.6%
2016年12月期	20円	20円	40円	46.8%	12.9%
2017年12月期(予想)	20円	20円	40円	42.1%	13.4%



CDSグループ 今後の成長戦略

グループ各社の特徴を活かし“ものづくり企業”の
全工程をトータルでサポート



ドキュメンテーション事業

コア技術	Webコンテンツ、CGアニメ、eラーニング、セールス・技術プレゼン、多言語翻訳等
主要製品/サービス	技術資料、教育資料、作業要領書、取扱説明書、パーツガイド、整備解説書等

エンジニアリング事業

コア技術	先端ロボット技術、CAD、CAE等
主要製品/サービス	ロボット・システムの製造、FAエンジニアリング、メカトロ教材の製造・販売

技術システム開発事業

コア技術	CAD、CAE、CAT、CAM、PDM、BOM、PLM、SCM、CRM等
主要製品/サービス	製造業における製品開発に係る技術系システムの開発・運用及び企画・コンサルティング、試験・解析等

CDSグループ 経営方針

1. 事業領域の拡大・確立

- ・エンジニアリング事業の新規プロジェクト（IoT、AI、ロボット）をグループの最重点課題として取り組む

2. 既存事業での継続的な発展

- ・提案力の強化、高付加価値技術や当社独自の新技术による他社との差別化・競争力強化
- ・上記施策の推進による“既存顧客の囲い込み” “新規顧客の開拓”
- ・グループシナジーを追求し、オンリーワン企業として業界内での確固たる地位の確立を図る

3. 経営体質の強化

- ・グループ各社の営業利益率の向上を目指す

ロボットビジネスの確立

- ・食品・医薬品・農業・機械分野を中心に独自のセル型ロボット・FAシステムを開発・拡販
- ・先端ロボット技術で差別化・新規顧客開拓

外部環境

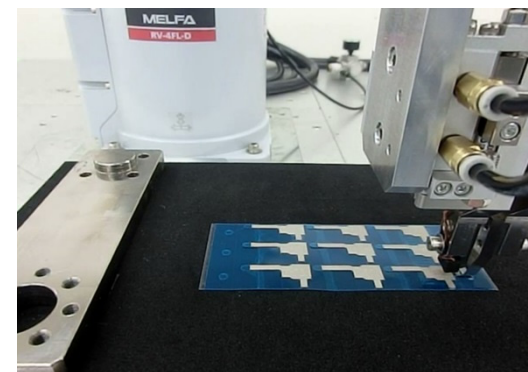
- ◇ 少子高齢化に伴う慢性的な人手不足
- ◇ 農業就業人口の高齢化・減少

減速機組立ロボット

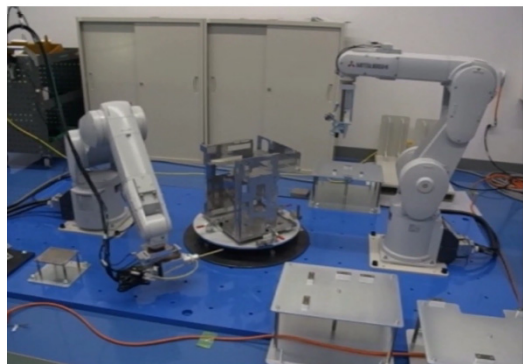


最先端技術で
ユニークな
ロボットアプリケーション
を実現

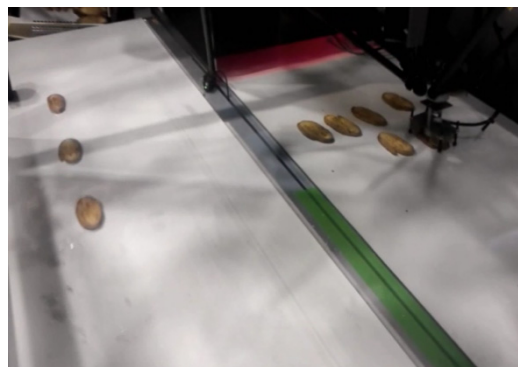
電子部品 シール貼りロボット



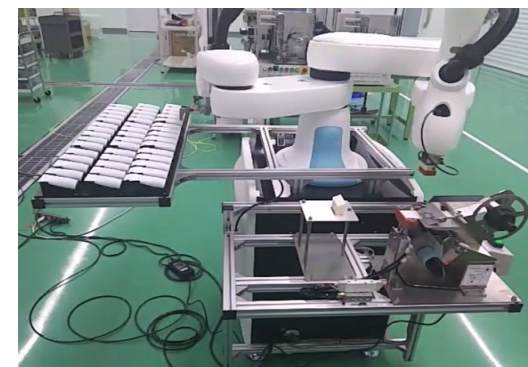
板金フレーム 組立ロボット



食品 非接触搬送



双腕型ロボット



- ◆ この資料は投資家の参考に資するため、CDS株式会社(以下、当社)の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- ◆ 当資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。
- ◆ 本資料において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測ならびにリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- ◆ それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- ◆ 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本資料に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。
- ◆ その他の掲載内容に関しても最新の注意を払っておりますが、不可抗力により情報に誤りを生ずる可能性もありますので、ご注意ください。
- ◆ 以上を踏まえ、投資を行う際は、投資家の皆様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

